

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
449	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Light-to-moderate alcohol consumption and risk of sudden cardiac death in women. 女性の軽度から中等度のアルコール消費と心臓突然死の危険性	
<b>執筆者</b>	
Chiuve SE, Rimm EB, Mukamal KJ, Rexrode KM, Stampfer MJ, Manson JE, Albert CM.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Heart Rhythm. 7(10):1374-1380 (2010)	
<b>キーワード</b>	
アルコール、心疾患、コホート研究	
<b>要旨</b>	
<p><b>背景：</b> 中等度のアルコール摂取は冠動脈心疾患（CHD）の危険性を低下させることと関連しているが知られているが、心臓突然死（SCD）との関連については殆ど分かっていない。男性では、過度のアルコール消費は SCD の危険性を上昇させるが、軽度から中等度のアルコール摂取はその危険性を低下させる。しかし、女性に関して、類似のデータはない。</p> <p><b>目的：</b> この研究の目的は女性でアルコール摂取と SCD の危険性の間の関連性について評価し、CHD の他の形態での危険性と比較することである。</p> <p><b>方法：</b> 基礎データで慢性疾患に罹患していない Nurses' Health Study 参加者 85,067 人の女性での前向きコホート研究を起こった。アルコール摂取は質問票によって 4 年毎に確認した。主要評価項目は SCD、致死性 CHD、非致死性心筋梗塞であった。</p> <p><b>結果：</b> アルコール摂取と SCD の危険性の間で、U-型の関連性が認められた。最も SCD の危険性の低かったのは 5.0-14.9 g/日のアルコールを摂取している女性であった (2 次関数トレンド P 値= 0.02)。非飲酒者と比較して、SCD に対する多変量相対危険度は、以前に飲酒していて今は禁酒している人で 0.79、0.1-4.9 g/日の飲酒者で 0.77、5.0-14.9g/日で 0.64、15.0-29.9 g/日で 0.68、30 g/日以上飲酒者で 1.15 であった。対照的に、アルコール摂取と非致死性および致死性 CHD との間の相関はより直線的で (線傾向 P 値&lt;0.001)、すなわち、濃度に依存して危険性が上昇する傾向にあった。</p> <p><b>結論：</b> 女性でのコホート研究で、軽度から中等度のアルコール摂取と SCD の間で、アルコール摂取量が 5.0-14.9 g/日を底とする U-型の関連性が認められた。低レベルのアルコール摂取は SCD の危険性を上昇することはなく、女性でもその危険性を低下させる。</p>	